

根絶に向けて取り組みましょう」

#### P.10

埼玉県の話です。1万円札のモデルにもなった渋沢栄一と深谷東 RC・深谷 RC の事について。新貨幣フィーバーを一過性のものにせず次なる仕掛けを検討し地域の一人一人の郷土愛を高め発展を目指しているそうです。

#### P.44~45

2025-26 年度のロータリーの友の表紙を飾る絵を大募集。大宮西から是非表紙をかざりたいと思いますので奮って応募してください。締め切りは、2025年2月28日です。

#### 縦組

#### P.4~7

千葉県の鋸南ロータリー堀田さんのスピーチ。「風災の地で生きる」自然災害が起きたときに2790地区の6クラブで「災害時相互支援に関する覚書」と言う内容で調印したそうです。ロータリーの友情・奉仕の精神についても語っております。ご一読ください。

#### P.20

ロータリーあるある相談室での相談内容は興味深いものでした。こちらもご一読ください。

### イニシエーションスピーチ

#### 井田 人志

ソニー生命保険株式会社 埼玉 LPC  
2023.11.6 入会

私は先週 49 歳になり、コロナでリモートになった妻と、中 1 の一人娘とは、2 年前から、桜木町と北与野駅前とで別々に住んでいます。

長崎県長崎市で生まれ、長崎西高を卒業するまで育ちました。小 6 の時に、平和祈念式典に長崎市代表で参加し、平和への願いを長々と読み上げました。

両親は 20 代で日用品のカタログ販売を創業。陸上の国体選手だった父親から、小 1 からラグビースクールに入れられ、毎朝 30 分走らされ、小 4 からは弟とふたりで朝 4 時から新聞配達。雨の日も雪の日も、中学校に入るまで丸坊主でやられました。

母親は泉ピン子と田中真紀子をたしたような強烈さで、私が上京するまでは商売が上手くいっておらず。「スポーツメーカーのシューズが欲しい」と言うと、白無地の靴にマジックで、上手にアシックスやアディダスのマークを書き… さすがに友達にいじられました。今思うと、幼少期から対応力、人間力が育てられたと想います。

両親共に、人に振る舞うのが大好きで、みんなが喜んでいるその光景は子供ながら嬉しく、根づいていて、今の私の核となっています。「葬儀など人が一番大変な時には、何を差し置いてもすっ飛んで行け！優先順位は間違えるな！」と言われて育ちました。

ソニー生命のライフプランナーになってからは、奥様からは井「田さんから主人にこう言ってほし



い」ご主人からは「井田さんから妻にこう言ってほしい」と板挟みで、俺は何屋なんだろう？と、よく感じています

私は J A I F A 公益社団法人ファイナンシャルアドバイザー協会で、昨年度からは顧問となり、全国およそ 5,000 人の中で、契約件数 1 位となりました。と同時に、全国の優秀な成績をコンスタントに納め続ける“優績者”たちと本社から「見た目と違ってマメだし面倒見いいし真面目だから、ロータリーに入ったらいいよ！」「大宮西が、勢いがあっていいよ！」と言われました。そこで渋谷さんに紹介者となっていただきました。3 年前からは毎月ギリシャ哲学やインド哲学を学んでいます。座右の銘は「先義後利」と「人間万事塞翁が馬」。

人生において大切なのは、富の最大化ではなく、経験の最大化であり、良質な経験のために、積極的にお金を使うべき！と思っています。

今の私の仕事は主に個人ではアセットマネジメントのプラン作りと相続対策、法人は主に株価が高騰し易い業種の事業承継に特化し、法人事業概況説明書をよみ、自社株対策で金庫株、黄金株、財務では資金繰り・銀行融資・銀行の格付けを、業種別審査事典から読み解いています。連帯保証人解除の手法も身につけ、物心両面でひとりでも多くの人を豊かにし、日本の中小企業を元気にする！このミッションを、気力体力が続く限り、地道にコツコツ着実に遂行していきます

「我がソニーのスピリッツ、人のやらない事をする、人生を楽しむ、人々にエンターテインメントを提供する」をモットーに、今やるべきことを、今しか出来ない事を、オモテナシの精神で、「利他の心」を心柱に、率先垂範して、渦の中心となって、これからも精一杯生き抜いて行きます。

#### 鼻戸 勝紀会員

株式会社 大林組 2024.04.22.入会  
「技術の伝承について」

伊勢神宮は、式年遷宮（しきねんせんぐう）と申しまして、社殿が、1300 年もの間、20 年に一度隣の敷地に建て替

えられています。宮大工の世界では、20 年に一度社殿を建て替えることにより、棟梁が代々技術を伝承してきたといわれています。当時の人の寿命から 20 年が弟子に教える限界だったのかもしれませんが。そうすることにより 1300 年たった今でも同じものが作れるわけです。

匠の世界では棟梁が、カラスが白いといえば、白く見えなければならぬという教えがあります。これは、棟梁に絶対服従しなければならないという事ではありません。カラスは、黒に決まっているだろうという固定概念を捨てて努力して努力して修行を続けているとある時、自分にもカラスが白く見えるという事です。

それは棟梁と同じように物事を考えられるようになったという事でとても幸せな事です。我々建築屋の技術伝承の根幹はそこから始まっています。

